

平成31・令和元年度 学校評価(前期)による検証・改善の取組

綾川町立綾南中学校

【評価基準： 4 達成 3 ある程度達成 2 あまり達成できていない 1 できていない】

重点事項		自己評価	考 察 (数値は、肯定的に回答した者の割合)	改 善 策
学びにときめかせる授業づくり	人のことを大切にしてくる力を高めることを基盤に、学習規律と生活規範の指導の徹底を図り、確かな『学びの作法』を身に付けさせる。	3.0	年度初めに『学びの作法』の行動様式を整え、全職員による日常指導に努めるとともに、学習委員会を中心とした生徒主体による取組を仕掛け、一定の定着が図られている。 一方、生徒アンケートでの「大きな声で授業終始の挨拶ができていない」は79%にとどまっている。	⇒随時、『学びの作法』の意味理解と価値認識の浸透に努めながら、授業終始の挨拶をはっきりと大きな声で言い続けることによるオン・オフの切り替えができるよう指導の徹底を図る。
	「課題づくり→学び合い→振り返り→新たな課題発見」の流れを、教科の特性を踏まえながら工夫していくことで、本校の学習スタンダードとして定着させる。	2.6	生徒による授業評価での「学習課題は興味を持って取り組めるように工夫されている」、「学び合いの時間は学習課題の解決につながるよう工夫されている」はそれぞれ97%、96%となっており、一定の成果が見て取れる。 一方、教員においては、一時間の授業の中で振り返りを新たな課題発見につなげることに難しさを感じている。	⇒「課題づくり→学び合い→振り返り→新たな課題発見」の流れについては、前時の振り返りの内容から本時の課題づくりに結び付けることを意図しながら、生徒が授業での学びが繋がっていることを意識できるよう共通実践に努める。
	小テスト等を継続的に取り入れるなど、繰り返しによる定着を図り、生徒の「分かった」「できた」実感を積み重ねさせることで、自分に対する自信を高めさせる。	3.0	生徒アンケートでの「学習内容が分かったという実感がある」は94%となっており、一定の成果が見える。 一方、「難しい課題にもあきらめずに粘り強く取り組んでいる」は81%にとどまっており、達成感や成就感を自信にさせながら挑戦への意欲を醸成することが課題である。	⇒教科の特性や単元の内容に応じて、授業での小テストを取り入れ、家庭学習や朝の学習とも連動させながら、学習習慣と学習内容の確実な定着を図る。
やすらぎのにじむ集団づくり	さぬきの教員かかわりの三訓【共感的に受け止め、チームの力で、毅然と粘り強く】による共通実践に徹し、互いの存在を大切にしようの正義の風を醸成する。	3.2	生徒アンケートでの「先生方は話をよく聞いてくれた」、「礼儀やマナーをきちんと指導してくれた」はそれぞれ97%、96%となっており、昨年度の同時期を上回った。 また、保護者アンケートでの「子供の間違った行動をきちんと指導してくれる」は93%となるなど、共通実践の成果が伺える。	⇒道徳の授業を充実させ、多様な価値観を受容するとともに、相互に尊重し合う風を更に高める。 ⇒配慮を要する生徒については、各種委員会を中心に情報を共有し、問題行動等の未然防止と早期対応に努める。
	学校行事、学級・生徒会・部活動等の様々な活動において、自己決定や任せたりする場や機会を意図的に仕組み、期待感を持って見守り、自主・自律の力を高める。	3.0	生徒アンケートでの「いろいろな活動において先生は私たちに活動を任せってくれる」は92%となっている。 また、保護者アンケートでの「学校の雰囲気がよく子供たちは生き生きと活動している」は94%となっており、自主・自立を促す取組が浸透してきた成果が見える。	⇒確固たる取組となるよう継続する。 ⇒生徒会本部を中心として各専門委員会、部長会、マネージャー・リーダーズ等の組織を体制化し、リーダー育成に努め、集団の推進力を高める。
	生徒一人一人の頑張りや集団としての成長に『ポジティブ・フォーカス』し、勇気づけのメッセージを注ぎ続け、自己肯定感を高める。	3.1	生徒アンケートでの「先生方は自分たちのよいところや頑張りを認め励ましてくれた」は94%で昨年度の同時期を上回った。 一方、「私にはよいところがあると思う」、「私は自分のことが好きだ」はそれぞれ81%、61%となっており、こうした生徒の自己肯定感に係る意識を高めていく必要がある。	⇒確固たる取組となるよう継続する。 ⇒生徒会によるエール・フォートの取組をバックアップし、『ポジティブ・フォーカス』による営みを本校の学校文化として浸透させる。
地域とともにある学校づくり	学校運営協議会において、学校運営のビジョンや課題等を共有し、地域の人的・物的資源等の支援を得ながら、課題解決や目標達成に向けた協働を促進する。	3.3	年度当初に第1回学校運営協議会を開催し、学校運営方針の承認を得た。 また、学校行事等の際には委員の来校を依頼し、生徒や学校の様子に対して意見や助言を求め、教育活動の検証・改善に取り入れている。	⇒本校の現状に応じた持続可能な学校運営協議会の在り方を形づくり、無理のない運営に努める。 ⇒10月に第2回学校運営協議会を、2月に第3回学校運営協議会を実施する。
	組織的・継続的な学校評価に取り組み、教育活動の不断の検証・改善に努める。	3.3	学校運営の取組を客観性を担保して検証するために、生徒による授業評価、生徒・保護者アンケートを自己評価・自己点検の参考資料として全教職員で共有し、現状把握に努めている。 その内容については、10月の第2回学校運営協議会に報告し、意見をいただく予定である。	⇒学校運営協議会と連動し、より実効性のある検証・改善の営みとなるよう確立する。
	様々な媒体を通して、教育活動のねらいや様子、生徒の成長等を積極的に情報発信し、保護者や地域住民等に本校教育に対する理解促進を図る。	3.4	校長通信や学年団通信、PTAの会、地域の連絡協議会等では、意図的な情報発信に努めている。 保護者アンケートでの「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」、「学校は通信等で保護者に十分な情報提供をしている」はどちらも94%となっている。	⇒校長通信や学年団通信等の定期的な発行を継続するとともに、ホームページの更新によりタイムリーな情報発信に努め、本校教育に対する理解促進を図る。
教職にときめく職員集団づくり	過去・現在・未来をしっかり見据え、今の教育を創造する姿勢を忘れず、自己・相互研鑽に励む。	3.0	昨年度の同時期の自己評価より0.2P上回っている。 「ときめき」と「やすらぎ」をキーワードとした学校づくりのスローガンの具現化に向けて、各分掌からの提案を基に、学校全体としてベクトルを揃えた実践に努められている。	⇒確固たる取組となるよう継続する。 ⇒学年団や教科内でベテラン、若年者がそれぞれの持ち味を生かせるよう相互研鑽に励む。
	目の前の事実と誠実に向き合い、保護者とともに悩み、見守り、喜び合いながら、生徒の成長をいっしょになって支え、導く。	3.2	毎日の生活記録やふれあい活動を通して、生徒の心情や環境の変化等を迅速に把握するよう努めている。 保護者とは、時機を逸さない連絡や相談を取り合うよう努めており、保護者アンケートでの「子供についての相談に適切に応じてくれる」は92%となっている。	⇒確固たる取組となるよう継続する。 ⇒ゲーム依存等の社会問題や進路に関する情報を、生徒のみならず保護者にも積極的に提供する。
	自他の健康に留意し、ワークライフバランスの実現を図り、元気に職務に精励する。	2.7	出勤時に退勤時間を自己申告するとともに、一月毎に全職員の勤務時間外の在校時間を個別に周知し、勤務時間を意識した取組を進めている。 新たに部活動の休養日の拡充を含めた運営方針を定めたが、総体等に向け、退勤時刻が遅くならざるを得ない現状がある。	⇒勤務時間を意識して、時間を有効活用しながら業務に精励する気運を醸成する。 ⇒教頭や各主任を中心にワークシェアをリードし、協働意識を徹底する。